

日本山岳写真協会 選抜展 No.13 「それぞれの山」

日 程／平成28年1月28日(木)～2月3日(水) 会 場／ポートレートギャラリー

1	秋彩・双六岳	池 田 栄 子
<p>今年の紅葉の主役は何色かな・・・、想いを馳せながら、山稜への登山は苦しくも楽しい。山が、谷が、草も、樹々も、華やかに輝いている一年に一度の晴れ舞台。そんな素晴らしさを独り占め。しかし、北アルプスの秋は短く、足早に駆け下る。</p>		
2	朝霜	石 塚 茂
<p>9月中旬、秋の訪れは尾瀬ヶ原湿原の草紅葉から始まる。10月に入ると赤より黄色を基調とした落ち着いた雰囲気のある紅葉になる。湿原では9月下旬頃から寒暖の差が激しく霜が降りることもしばしば。10月下旬になると、周りの山々には初雪が降り、湿原も茶色の世界になる。</p>		
3	荒ぶる雪稜	伊 原 明 弘
<p>厳冬の3000mの雪稜、神々の座にふさわしく荘厳で神々しい風景を気まぐれに、時々魅せてくれる。だが、ほとんどが、烈風と吹雪で明け暮れる。数カット、シャッターを押せただけでも良かったと失意の中の下山……。</p>		
4	陽春の雪稜	岡 孝 雄
<p>青春時代に登った東尾根。ダイナミックな雪稜と背後の上越の山並みは、スケールの大きい山岳景観を創り出す。幸いにも風雪の去った今朝は登攀者が現れ、当時の思い出と共に夢中でシャッターを切った。</p>		
5	錦繡くるむ	上 ヶ 平 裕 彦
<p>錦の彩りをくるみ込む雲の流れ。凜とした空気が飛沫を漂わせ雫をもたらしていく。白い静寂の中、冷えた頬に滴る水を払いながら、雲のヴェールが開くまでじっと待った。鳥達のさえずりが合図だ。差し込む光を浴び、幾多もの極彩色が煌びやかに浮かびあがる。再び白い静寂に戻っていくまでの儂い時、一瞬の至宝を楽しんだ。</p>		
6	渓雪変遷	川 野 誠
<p>黒部峡谷は私の心を捕えて離さず、撮影を続けている。此所は日本随一の大峡谷であり取りわけの上(かみ)、下(しも)の廊下景観は白眉である。しかし、春の残雪時と秋の消雪時の僅かの期間しか通行を許されず、撮影もかなりの困難を強いられる。豪雪の名残り、膨大なデブリは脅威の景観で、春から秋に向かって、デブリ(雪)の融雪変化を追いかけた。</p>		
7	夏の調べ	鬼 頭 剛
<p>6月に入って北海道には珍しく気温が高く雨の日が続いた。7月の初め十勝温泉の登山口から、早朝に十勝岳を目指す。D尾根で濃い霧と風に悩まされ上ホロカメツク山の避難小屋に着いた時から霧が晴れ、キバナジャクナゲ・エゾコザクラの群生に出会う。十勝岳の頂上に立つと美瑛岳の荒々しい南壁が迫ってくる。</p>		
8	晩秋の圏谷	瀬 戸 口 隆 司
<p>山は四季のうつろいととも、その美しさを変化させる。また、いつの時も美しい。とくに秋から冬への季節の変遷は木々はその様態を大きく変化させる。次の年の芽吹きのための長い準備の時を迎える。あたかも人の輪廻のようだ。自然の中の大きな流れの中で、私も人生における落葉のときを、静かに、そして、しっかり受けとめよう。</p>		
9	秋・清澄富士	名 取 洋
<p>南アルプスの前衛、鳳凰三山。秋になって空気が澄み、爽やかな風が吹くと、富士山展望の季節となる。薬師岳小屋をベースに終日、富士山の変容をカメラに収める。日の出前、赤く染まる東の空、朝の陽は色づいたダケカンバを一層燃えさせる。夜になると、甲府盆地の夜景を前に、暗闇の中に端正な姿を浮かび上がらせる。</p>		
10	小屋閉めの頃	畑 島 淳
<p>奥飛騨の小池新道は、北アルプスの中でも冬の到来が早く、10月中旬には小屋を閉ざす。毎年、小屋閉めの頃に最後の写真山行を行うが、三年に一度は、本格的に雪が降る。前日の吹雪が嘘のように晴れ、1日にして稜線は冬山の装いとなる。私はその移ろいの侘しさを感じながら山を下りた。</p>		
11	スノーブリッジ	広 木 孝 一
<p>豪雪地の春も終わり、初夏から8月にかけて沢に入ると、いろいろな形のスノーブリッジ(雪橋)に出会う。沢底から徐々に溶けた雪洞内は、見事なスプーンカットでキラキラ光り、内に入れば冷たい冷蔵庫の中だ。ただ気をつけなければならないのは崩落である。撮影では出来るだけ真下に立たないように気を付けている。</p>		
12	太古の命をつなぐ	福 田 泰 彦
<p>屋久島は神秘的な山々が聳える島である。樹齢3000年以上の太古の命をつなぐ屋久杉が、現在も多く生きている。人類の命脈に例えれば、100世代以上昔の時代に相当する。気の遠くなる年月を静かに見守ってきた大先輩として敬意を表する。これからも今を生きている人よりも、もっともっと長生きしていただきたい。しかし、何らかの影響で息絶えた杉を見つけ、心痛める。地球環境の重要性を感じずにはいられない。</p>		
13	冬の装い	舟 橋 恵 子
<p>12月も半ばを過ぎると、標高1212mの御在所岳から霧氷の便りが届き始める。山頂一面の霧氷群は、伊勢湾からの湿った風の影響か、昼過ぎても落ちる事は少ない。1月になると、スキー場がオープンし賑わうが、12月は静かで私は好き。白く装った山頂はウエディングドレスとパールそれとも白無垢の花嫁衣裳。私は霧氷のトンネルを通りながら毎年楽しい一時を過ごす。</p>		